



看護学部だより

山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

発行 山口県立大学看護学部 〒753-8502 山口市宮野下 TEL 083-933-1450 FAX 083-933-1483
山口県立大学：<http://www.ypu.jp/> 看護栄養学部：http://www.ypu.jp/index.php?M_ID=6

第11号

大学の今と看護栄養学部



山口県立大学 看護学部長・看護栄養学部 藤村孝枝

昨年は、大学の運営を自らが自主的、自律的に行いうる公立大学法人山口県立大学として、大学組織が大きく変革した年でした。1. 県民から信頼される「存在感」のある大学として地域社会の発展に寄与する 2. 地域貢献や地域連携の取組の強化 3. 教職員が一体となって新しい大学運営に取組むという3つの基本姿勢のもと、具体的な取組を中期目標・計画として定め、毎年度実施、評価していくシステムが動き始めました（詳しくは山口県立大学ホームページ<http://www.ypu.jp/>をご覧ください）。また、昨年9月には、全国国公立大学としては初のエコアクション21認証を取得し、その際作成した環境活動レポートが環境省及び（財）地球・人間環境フォーラムが主催する「第10回環境コミュニケーション大賞」の環境活動レポート部門 優秀賞に選ばれました。また、大学認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合していると認定され、正会員大学として加盟・登録することが承認されました。

そして、今年度より看護栄養学部は、看護学科（定員50名）、栄養学科（40名）の1学部2学科体制で、新たなスタートをきり、看護学科52名、栄養学科42名、計94名の新学部1年生及び看護学部9名、栄養学部4名の編入生を迎えました。

看護学科は、平成8年に看護学部看護学科として、看護師、保健師、助産師を養成する大学教育を県内で最初に開始し、平成16年には、養護教諭一種免許を取得できるようになりました。栄養学科は、昭和25年に設立された山口女子短期大学家政学科を前身とし、山口女子大学家政学部食物栄養学科、家政学部栄養学科、山口県立大学家政学部栄養学科、生活科学部栄養学科と、まさに大学の歴史の一翼を担ってきた学科です。昭和26年に栄養士養成施設、昭和51年には管理栄養士養成施設の指定を受け、県内唯一の管理栄養士養成施設として多くの栄養士、管理栄養士を輩出してきました。また、平成17年からは栄養教諭一種免許を取得できる課程も開設しました。

それぞれの学科の歴史や専門性は異なりますが、2学科はともに人々の健康や生活と深く関係する学問領域です。それぞれの学科の教育目標に向かって互いに切磋琢磨し、他者、他職種を理解し協働・連携する学習体験を通して、さらに看護学、栄養学の専門性を追求する学部教育を展開して参りたいと考えております。

第6回 山口県看護学研究会

日時 平成19年9月29日(土) 9:30~16:00

会場 山口県立大学 看護学科棟 F204

内容

一般演題報告（現在演題募集中）

教育講演

「新人看護師に期待される看護実践能力」

浜松医科大学医学部附属病院副院長・看護部長

桑原弓枝氏

新制・健康福祉学研究科

平成19年4月より、山口県立大学大学院健康福祉学研究科は健康福祉学専攻の博士前期課程と博士後期課程を有する大学院になりました。

詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/index.php?M_ID=8

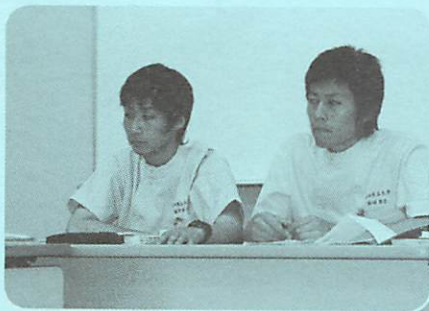
学生近況報告

看護学部2年 高岸豊史

大学生活が始まって、はや1年が経ちました。大学のことは何もわからずに不安でいっぱいだった一人暮らしにも少しずつ慣れてきたところです。大学での学びは一年生のときに比べると専門的な内容がより充実してきました。それに伴って事前・事後課題、グループワークも増え、看護学生としての忙しさに追われる毎日を送っています。しかし、一年前の自分たちに比べ、看護についての知識が増えたことを実感でき、それが嬉しく、学習への意欲を掻き立てます。

最近基礎Ⅱ実習や看護過程のグループワークの取り組みなどで忙しい日々が続いています。特に基礎Ⅱ実習を通して、得られることは大きいと思います。患者さんとの触れ合いは、学校での学び以上のものを与えてくれます。同時に看護技術など、自分たちの力不足を認識する良い機会でもあります。また、実習を通して、まだまだ未熟とはいえ白衣を着る者としての責任の大きさを感じています。

大学生活は毎日が忙しく、自由な時間を持ってないことも多くあります。特に実習中は忙しさや自分の未熟さゆえに自信を失くしそうにもなります。しかし、そんなときでも受け持ちの患者さんの笑顔やいつも周りにいて支えてくれる友達のおかげで、自分を見失わずにいれます。これからの大学生活もしっかりとした目標を持ち、支えあいながら夢に向かって頑張っていきたいです。



看護学部3年 河根春菜

私たち看護学部3年生は、6月から実習に入りました。日々の病棟実習が終わった後、学校に戻ってから図書室へ行き、色々な疾患について学んだり、ケア方法について考えたりすることが今まで以上に増えました。実習中には学内で各自が技術演習も行っています。何度も何度も練習を繰り返すことによって、自分自身の技術向上を図り、患者さんに対する援助方法を正しく行えるよう努力しています。演習中には、どの点が良くないか、ケアを行う側としての気付き、患者としての気付きを言い合い、より良いケア方法についてカンファレンスし、学び合っています。3年生は、実習を行う回数や日にちが1・2年生よりもかなり増えたことや、病棟での看護を様々な点で捉えることが可能になったことにより、看護の現状について表面のみならず深い部分まで触れることができるようになったと思います。それにより看護とは何かと考えたり、自分の行いたいと思う事柄と現実に出来る事柄のギャップや、どのように対処していくか悩むことが多くなりました。時には看護に対し前向きに捉えられなくなることもあります。このように辛く苦しいときもありますが、クラスの仲がととても良いので、悩んでいる人の話を聞き、悩みへの対処法を一緒に見いだすなど、みんなが支えあいながら実習に取り組んでいます。これからもクラスの仲間同士で助け合えるよう、知識や技術を増やし、学びを共有できればと思っています。大学生活も残り半分を切りました。このメンバーで過ごせる時間を大切にし、残りの大学生活を楽しく、また、有意義に過ごせたらと思います。

看護学部4年 吉 武 由紀恵

4年生になると授業はほとんどありませんが、卒業研究、最後の実習、国家試験に向けての勉強、就職に向けての情報収集に取り組んでいます。助産師や養護教諭を目指す人達は、これからより専門的な知識の習得や実習が待っています。この大学生活は、今までの人生の中で一番早く過ぎてしまった時期であり、同時にこんなに楽しい時期はありませんでした。時には実習やグループワーク・課題に追われ、朝から夜まで学校で過ごすこともありましたが、その大変さを分かち合ってくれた友達に支えられてここまで来れたと思います。まだ未熟なために悩んだ時期を一緒に乗り越え励まし合った友達は、きっと一生大事な存在になるだろうと感じます。実習は辛かった分学びも大きく、患者さんとの触れ合いを通して人間的に成長する機会となりました。しかしその一方で、“看護師になる”という夢も、いざ就職が現実のものに感じられると、自分は本当に看護師として現場で働くことなんてできるのだろうかと不安ばかりがつのってきます。高い専門知識や技術が要求され大きな責任の伴う看護業務を、自分が行うようになる事がとても信じられません。将来への不安を口にすればきりがなくなりますが、大学4年生として今できることを後悔のない様、取り組んでいかなければと感じます。残りの日々を大切に、最後には「良い4年間だった」と笑顔で卒業したいです。実習での学びや患者さんの笑顔を思い出しながら、理想の看護師を目指して頑張りたいと思います。



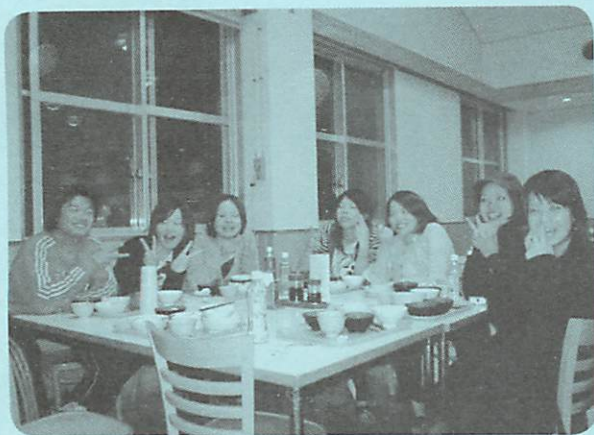
編入3年 中 尾 沙 織

入学して約三ヶ月経ちました。入学した当初は大学生活への期待と慣れない環境での緊張から胃が痛くなることもしばしばありましたが、慣れてきた今は将来の事を考える余裕が持ててきたなと感じています。

近況報告として、学校生活で一番大変なことは、やはり看護棟への移動です。何故駅の近くに大学があるのに看護棟だけ遠く離れているのか不思議です。おかげ様で、入学当初は息切れしていましたが今は体力が付いたのか弾むぐらいの呼吸で移動出来るようになりました。約一時間掛かる電車通学にも慣れました。ときどき寝過ごししたり、乗り違えて逆送したりすることもあります。慣れっこになってしまいました。

大学での勉強で一番楽しみにしていたのは専門の内容です。保健師はどういう保健活動をしているのか詳しく理解していませんでしたが、徐々に理解が深まるごとに保健師として働きたいという気持ちが膨らんできているように感じます。地域保健学の演習をしていますが、疾患を持っていない人に自分を見つめなおしてもらうことの大変さや演習を通して保健活動の難しさを感じています。同時に、自分たちの中でも様々な発見もあり楽しい作業であると感じています。また、編入生はもちろんのこと、在學生の方たちも皆親切な方たちなので本当に良かったです。二年間という短い間ですが、仲良く卒業できたらいいなと思っています。

大学は専門学校に比べ時間が沢山あるように感じます。沢山あるといっても、三ヶ月はあっという間に過ぎていったので二年間なんてそう長いものではないかもしれません。しかし、めったに無いチャンスになると思うので上手に使いたいです。



編入4年 松村 菜月

昨年の4月、養護教諭を目指して本学に編入学をして1年が経ちました。入学当初は大学の雰囲気にも慣れず、また、専門学校時代に取った単位の認定作業や大学の授業の履修の仕方など、分からないことだらけでとまどうばかりでしたが、一緒に編入してきた10人の仲間と助け合いながら日々過ごしてきました。こうして1年余りの時間を共有してきた中で、編入生同士の繋がりが深くなっているのを実感します。時間を見つけては一緒に食事や旅行に出かけたりして、大学生活と一緒に楽しめる大切な仲間ができたことがとてもうれしいです。また、編入生の中には臨床経験がある人も多くいて、専門学校を卒業してすぐ大学に編入した私にとっては、貴重な臨床の話や聴ける友達が傍にいるのもとても心強いです。

現在4年生となり、3年生のときと比べて時間割にも少し余裕ができましたが、その分今は卒業研究に時間を費やしています。私はこれまで学んできた看護とは少しはずれて、講義を受けていて興味が湧いた医学分野の研究室に入りました。先生に熱心に指導をしていただきながら、ゼミの仲間と相談をしてテーマを決めました。予測した結果が出るかどうか期待と不安が入り交じった気持ちで研究を進めていくのははじめての経験でとてもワクワクしています。これから先は考察を深めていく段階に入るので、よりいっそう団結力を高めながら満足のいく研究となるよう努力していこうと思います。

これからは、夢である養護教諭になるための養護実習があったり、就職活動や保健師国家試験も控えていて忙しくなってくると思いますが、大学生活の残り一年が充実したものとなるよう、すべてに全力で取り組んでいきたいと思っています。

卒業生は今

平成17年度卒業 若松 真紀

看護師として働き1年が過ぎました。初めは、一日の仕事を覚えることに精一杯で看護をしているというよりは、業務をこなしているという感じでした。しかし、1年が過ぎ病棟の雰囲気にも慣れて、やっと病棟の一員として働くことができているように思います。私が所属している部署は心臓血管センターというところで、循環器と心臓外科が混合されている科になります。突然の急変や一刻を争う状態で病棟に上がってくることもあり、適切なアセスメントや敏速な対応が要求されます。学生の頃の病院実習とは異なり、現場では看護師としての責任の重さや大変さを身にしみて感じており、緊張の毎日と同時に責任の重さに押しつぶされそうな毎日です。私に看護師という仕事ができるのかと、日々不安を抱きながらも、患者さんからの「あなたの顔を見ると元気になれるよ」といった言葉や元気に退院されていく姿をみることで、看護師の仕事のやりがい、楽しさを感じながら仕事をしています。

看護師になってからこれまで、多くの患者さんや家族の方と関わってきました。そして、患者さんの笑顔や喜び、また不安や悲しみといった多くの感情を共にしてきました。しかし、学生の頃のように患者さんとゆっくり話す時間がほとんどなくなってしまったように思います。今までは患者さんから看護師さんは忙しそうだねと言われることが多く、余裕を持って看護を提供できていなかった部分があるように思います。今年の4月からは7：1の看護体制が導入されたことから、当病院でも看護師の数が増え、その分患者さんとの関わりを持つ時間が増えました。今後は、患者さんと目線を合わせて、腰を下ろして、患者さんと過ごす時間を大事にして、個性のある看護が提供できるように努めていければと思います。



平成18年度卒業生 進路状況

事 項	人 数	県 内	県 外
進 学	0	0	0
就 職	51	19	32
(内 訳)			
看 護 師	40	14	26
保 健 師	4	2	2
助 産 師	6	3	3
教 員	0	0	0
そ の 他	1		1
計	51	19	32

YPUクッキー

山口県の農産物を使った山口県立大学オリジナルクッキーを販売中です。

- 【販売価格(税込み)】
 12袋入り(4種×3袋) 1,000円
 4袋入り(4種×1袋) 350円
 1袋(1種:2枚入り) 90円



「お菓子のジェネレ」(店頭販売)
 山口市錦町5-25 ☎ 083-932-0180
 「山口県立大学売店」(注文販売)
 山口市桜島3-2-1 ☎ 083-928-0531

平成19年度 看護学部出身地一覧表

学年 県名	1年生		2年生	3年生	4年生	合計
	看護	栄養				
山 口	28	13	24	32	31	128
広 島	5	6		4	4	19
島 根	1	1		2	3	7
鳥 取	1	1				2
岡 山			1		1	2
高 知						0
香 川		1		1		2
愛 媛		1	1		4	6
徳 島				1		1
福 岡	3	3	6	5	5	22
大 分	1	1	1		1	4
佐 賀	4	1		2	2	9
熊 本	2		2		2	6
長 崎	1	1		2	2	6
宮 崎	2	2				4
鹿児島		3	2	1		6
沖 縄			1			1
京 都	2					2
兵 庫	1	1	2		1	5
大 阪	1	1		2		4
三 重		1				1
和歌山		1				1
奈 良					1	1
愛 知		2				2
長 野		1				1
新 潟		1				1
福 井			1			1
福 島				1		1
北海道			1			1
合計	52	42	42	53	57	246

※出身地は学生累加記録の帰省先の住所による

※1年生は看護栄養学部

平成18年度 看護学部教育研究充実費決算報告

<収入の部>

(単位:円)

費 目	合 計	1年生	2年生	3年生	4年生	3年編入	4年編入	合計
徴収金	5,815,000	1,890,000	1,025,000	1,125,000	1,350,000	200,000	225,000	5,815,000
(一人当徴収額)		(45,000)	(25,000)	(35,000)	(30,000)	(20,000)	(25,000)	
雑収入(受取利息)	2,714	826	806	885		197		2,714
合 計	5,817,714	1,890,826	1,025,806	1,125,885	1,350,000	200,197	225,000	5,817,714

<支出の部>

(単位:円)

費 目	合 計	1年生	2年生	3年生	4年生	3年編入	4年編入	合計	備 考
臨地実習費	2,742,258	1,256,766	343,003	467,494	536,610	80,993	57,392	2,742,258	実習要項、will保険料 他
学習援助費	2,115,633	363,289	357,168	409,983	744,787	86,489	153,917	2,115,633	教材実費、国家試験対策他
予備費	217,932	47,672	46,538	30,078	68,603	11,350	13,691	217,932	学生控室文具他
学生返金	738,400	222,600	278,800	216,000	0	21,000	0	738,400	
(一人当返金額)		(5,300)	(6,800)	(4,800)	0	(2,100)	(0)		
次年度繰越金	3,491	499	297	2,330	0	365	0	3,491	
合 計	5,817,714	1,890,826	1,025,806	1,125,885	1,350,000	200,197	225,000	5,817,714	

*教育研究充実費は実費弁済として徴収しておりますので各学年徴収額が異なります。

*1年生は、臨地実習費に小児感染症検査料・聴診器代他が含まれます。

*返金後の端数は繰越金としています。

2007年3月31日 看護学部長 藤村 孝枝

平成19年4月1日 看護栄養学部が誕生しました

看護栄養学部における教育

看護栄養学部では、看護、栄養の専門職に期待される知識、技術、態度を身につけ、人間尊重の精神と地域の生活者の視点を重視し、地域の人々の健康増進、疾病予防、療養上の支援のために協働できる人材の育成を目指しています。

看護学科長あいさつ

看護学科長 中村 仁志



平成19年4月より、看護学部看護学科から看護栄養学部看護学科に変わり、一学部二学科体制になりました。

平成19年度、大学全入時代を迎え、看護系大学は、

県内3校、全国で約160校になります。受験生は看護系大学から自分の目的にあった大学を選ぶ選択肢がますます増えている中、大学では受験生にアピールできる特色を強く打ち出す必要があります。

これまでも看護学科では『保健・医療・福祉従事者の一員として、看護の専門的機能を発揮できる能力を養い、社会の様々な分野において人々の健康と福祉の向上に寄与できる人材育成』を理念として教育を行ってきました。さらに新生看護学科では、人の健康を対象として、他職種と協働できる人材の育成を目指します。その一つが、健康の基盤にある食を対象とした支援を提供する栄養学科と同学部になることにより、健康を維持、増進、不健康からの早期回復をテーマとした幅広い支援ができる人材を育成できると考えています。

これからも特色ある看護学科として、これまで以上の教育を提供できるよう、教職員一同努力を惜しまないつもりで臨んでいます。

今後とも、皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

栄養学科長あいさつ

栄養学科長 長坂 祐二



不便を楽しむ心の
余裕を持とう。

今年の栄養学科の新入生宿泊オリエンテーションは、長門市にある大寧寺において座禅研修を行いました。クラスの親睦をはかる

ことが目的であれば、もっと快適な場所で、もっと楽しい行事があるだろうにという意見もあるかと思いますが、あえて、行動の自由が束縛され、我慢を強いられる環境で研修を行いました。その理由は、不便なこと、辛いことの中にも、心の持ち方、考え方一つで楽しむことができ、困難を乗り越えたときに、新しい自分と出会うことができることを知って欲しかったからです。私たちは様々な環境の中で生きていますが、安楽な環境だけを求めていると、心と体の大切な部分が退化し、新しい環境に適応できなくなってしまいます。不便なこと、面倒くさいことを最初から避けるのではなく、クイズやゲームに挑むような感覚で楽しむ心の余裕をもってください。成功するか失敗するかの結果ではなく、過程を楽しめたかどうか、「おっ、自分は結構やれる」と思えたかどうかが大事です。大寧寺での研修を耐えることができたということは、もはや4年間の学生生活で怖いものは何もないと自信を持ってください。クラスの絆も「同じ釜の飯を食った」仲間ということで、より強いものになることを期待しています。

看護栄養学部新入学生近況報告

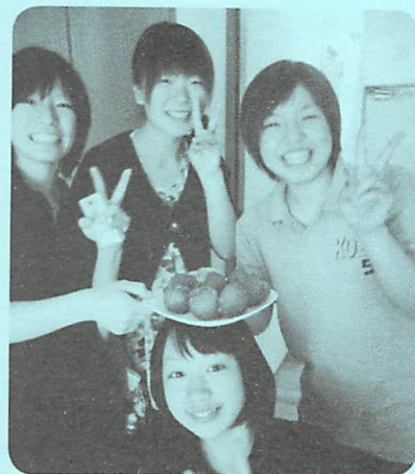
看護学科1年 百 済 みゆき

私たちが山口県立大学に入学して、もうすぐ3ヶ月が経とうとしています。最初は、全くわからない環境で友人が出来るかどうかという不安でいっぱいでした。寮や一人暮らしの人はそれ以上の不安があったと思います。でも、不安ばかりでなく新しい学校生活に大きな期待もしていました。

入学してすぐの光の宿泊研修は友人を作るための良い機会でした。2日間でしたけれど、とても楽しくて充実した時間を過ごせました。先輩方の交流会もあり、先輩方に大学のことについていろいろ聞けて、とても参考になったことを今でも覚えています。初めての履修登録はとても不安でしたが、同じ進路に進みたいと思っている友人を見つけ話し合っ、友人同士の交流を深めていました。

最近では、聴診器を購入しました。聴診器が届いたときには嬉しさのあまり、どんなものか試す人もいて、各々が初めて手にするものに興味を抱いていました。それと同時に「自分は看護師になるのだ!」という実感が沸き、勉強に対するやる気が一層強くなったように思います。また、ユニホームも今どんなものにするか検討中で、初めて着るユニホームに期待をしていますが、実習がきちんと行えるかという不安もあります。

現在は、大学の環境にも慣れてきました。友人との関係も良好で、クラスの仲も良いと思います。サークル活動を行っている人が多く、それぞれが大学生活を楽しんでいます。



栄養学科1年 宮 里 彩 音

山口県立大学に入学して3ヶ月が経ちました。最初の頃はなかなか大学生という気分を感じられずにいたのですが、レポートや課題の提出が多くなり、授業内容も今までとは違い、専門的なことが増えてきたので、少しずつ実感がわいてきました。

地元を離れて、新たに山口県立大学でスタートした私の大学生活は、毎日が新しい発見で驚くことばかりです。

学部の友達も増え、部活やサークルの先輩とも仲良くなりました。友達や先輩は、全国各地から集まっているので、一緒に話をしていると、よく方言やちょっとした言葉の訛りの違いに話が盛り上がります。

6月2日に行われた入学後初めての大きな行事である水無月祭では、1年生は各学部でTシャツをそろえたり、応援で盛り上がったりと、団結して頑張りました。午後の部では、それぞれのサークルや部活で、友達や先輩と協力して模擬店やステージが行なわれました。私はバスケットボール部の模擬店で、サーターアンダギーという沖縄の郷土料理をつくりました(写真参照)。たくさんの方が買いに来てくれたので、とても楽しい一日となりました。

まだ、大学生活は始まったばかりですが、これからの4年間、どんなことがあるのだろうか、自分がどのように変わっていくのだろうか、期待と不安に満ち溢れています。夢に向かって新しい自分を見つけるための貴重な時間を、この山口県立大学で有意義に過ごしていきたいと思います。

新入教員自己紹介

看護学科 岩本 テルヨ



熊本大学医学部保健学科から異動してきました。県立大学看護学部には足元時より6年間いましたが、また5年ぶりに戻ってきました。5年ぶりの山口市内はほとんど変わっておらず、物足りない気もしましたが、そこが山口のよさかもしれませんね。専門は基礎看護学・看護倫理です。次の時代を担う看護学生とともに、看護を通して学びあい、対話することは大変楽しく、学生の成長に一喜一憂する毎日です。学生をみながら、看護の発展を思い描き、その起動力となる看護職に成長してほしいと願わずにはおられません。今後とも、看護教育に、研究に、歩みはのろくとも確実に前進していきたいと思っております。

看護学科 小野本 ヒロコ



助産師として大学病院に15年間勤務の後、自分の求める助産師像を描いて診療所に働く場所をかえ、18年間アクティブバースや母乳育児の成功のため昼夜を問わず傍に寄り添いお母さんを見守ってきました。また、思春期の性教育の必要性にも気づき、小中高や大学に出前講座に出かけておりました。今は学生さんと臨床実習等で色々新しい事を発見しながら楽しく過ごしている毎日です。宇部からの1時間の通勤時間に演歌の練習をしています。随分、沢山の歌を覚えました。ムシャクシャした時はヨン様のプロマイドを眺めています。神経質な所とどうにでも成れと聞き直るところと二重人格であるようです。もうすぐ還暦です。

看護学科 中本 朋子



3月まで山口県立衛生看護学院助産学科に勤務しておりました。山口県立中央病院（現山口県立総合医療センター）での臨床経験を合わせますと四半世紀の間、助産関係の仕事をしてきました。助産診断は、ウェルネス型診断といわれますが、私は根っからのウェルネス志向です。なかなか成功しない減量も「減量の準備状態」と思うような性格です。

看護棟2階ロビーに、堀研氏の絵画『大地に立つ』が掲げてあります。絵の前を通る時にはいつも一礼しています。しっかりと子を抱き、凜と荒野に立つ母の姿には引きつけられる世界があります。着任後早3ヶ月、暗中模索の日々ですが、この母子が、奥の深い助産の道を導いてくださるような気がしています。皆さん、どうぞよろしくお願い致します。

看護学科 小迫 幸恵



季節が過ぎるのは早いもので、9年住んだ明石を離れ、山口県立大学に着任して4ヶ月が過ぎようとしています。着任した頃には満開だった桜も終わり、蛍の季節も過ぎようとしています。緑に多く囲まれたキャンパスは深呼吸すると身体の中から元気になれそうな気がします。4月末からチューターの学生さん、また5月から4年生の小児看護学実習も始まり、まだほんの一部ではありますが、ようやく学生さん一人ひとりと少しずつゆっくりとお話ができるようになりました。少しでも多くの学生さんとお会いしたいと思っています。小児看護に興味がある方も、そうでない方も遠慮なく声をかけてください。お待ちしております。

栄養学科 橋本 夏夜子



4月から看護栄養学科の特任教員に着任しました橋本夏夜子です。下関市からはるばる通っています。担当科目は、学校栄養教育論Ⅰ、学校栄養教育論Ⅱ、管理栄養士基礎演習、栄養教育実習事前事後指導、栄養教育実習です。平成17年度にスタートしました栄養教諭の養成に携わっています。栄養教諭の役割、使命は、児童・生徒が一生心身ともに健康に過ごせるための食生活のあり方を考えさせ、学ばせ、実践することのできる能力の育成にあると思います。管理栄養士としての食の専門性を、いかに教育に生かすかと言う視点に立って、「どんな栄養教諭を目指せばよいか。」「そのために何をすればよいか。」を、また、子どもの目線にたって考えられるやさしい、たくましい栄養教諭が生まれることを目標に、学生の皆さんと一緒に探求していきます。

栄養学科 弘津 公子



4月から栄養学科に着任致しました、弘津公子です。

担当科目は、応用栄養学（ライフステージ別栄養学・栄養アセスメント・栄養食事評価実習）および臨床栄養学Ⅱ（高齢者の栄養管理）ならびに臨床栄養学実習Ⅱ（高齢者の栄養管理）の介護保険部分を担当しています。

3月末まで介護保険施設の管理栄養士として、永く勤務して参りました。

今回担当する「応用栄養学」は、ライフステージごとの対象者から得た情報により、栄養マネジメントを行うといった「人間栄養学」を中心に据えた内容です。これまで現場で培った経験と研究を基に、より「実践的な栄養学」をお伝えすることで、管理栄養士を目指す皆様のお役に立ちたいと願っております。

編集後記

看護栄養学部がスタートした記念すべき年の学部だよりです。表紙にはまだしばらく「看護学部」が残りますが、これから年を追うごとに看護栄養学部としての内容に変わっていくと思います。大学や学部の新しい風を感じていただければ幸いです。

編集委員 森口 丹 山崎 藤本